

平成30年5月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年5月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

種差海岸の天然芝生地を会場にしたヨガ体験会「種差朝ヨガ」が今シーズンも開催されます。

インストラクターの指導による「朝ヨガ」と、種差海岸の自然のパワーが、体をすっきり目覚めさせ、日々の疲れを癒してくれます。難しいポーズは行わないので、どなたでも気軽に参加できます。

今シーズンは、5月26日～9月29日の毎週土曜日の開催です。

所要時間は、朝7時～8時の60分間、料金は保険料込み500円です。

みなさまも、八戸にお越しの際は、海沿いの芝生の上で、早朝のさわやかな空気と波音を感じながらリフレッシュしませんか？

■朝ヨガの詳細はこちら（市ホームページ）

<https://hachinohe-kanko.com/experience/yoga>

※今回から、八戸市スポーツ大使の皆様へも送付しております。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 5月号 レポート

平成30年4月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	市立屋内スケート場 工事の進捗率は50%
(2)	八戸市 苫小牧市と連携強化へ
(3)	館鼻岸壁に待望の公衆トイレ新設
(4)	八戸市民病院のドクターカーV3 実績着々 蘇生事例も
(5)	是川縄文館企画展「掘りdayはちのへ」開催 5遺跡の遺物展示
(6)	老朽化により閉鎖した田名部記念アリーナ 市長が財政支援を表明

【産業】

記事	概要
(7)	青天の霹靂でせんべい汁を商品化 ～米粉入れ もちもちに～
(8)	八戸-苫小牧フェリー新造船「シルバーティアラ」就航
(9)	三八五フーズ 給食用ご飯でハサップ認定
(10)	「八戸前沖ふぐ福まつり」開催 ～旬の前沖トラフグ味わって～
(11)	青森県内2017年度民泊者数 6658人で過去最多
(12)	八戸港に“春の味覚” サクラマス今季初水揚げ

【地域】

記事	概要
(13)	中心街に夜間保育所「第二さえずりの森」開園
(14)	国家資格3級機械検査技能士 八戸工高生が一挙49人合格
(15)	本八駅前通りに“変わり種自販機”設置
(16)	蕪島でウミネコ産卵始まる ～「無事に巣立って」～
(17)	八戸市内最古の銭湯「三島湯」91年の歴史に幕
(18)	80年の節目を迎えた鮫角灯台 一般開放始まる
(19)	社会福祉法人でシステム開発 最新情報通信技術 (ICT) で見守り

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	全日本ジュニアレスリングで光星高勢が活躍
(21)	アイスホッケー女子五輪代表の中村亜実 (八戸出身) さん 現役引退

【行政】

記事	概要
(1)	<p>市立屋内スケート場 工事の進捗率は50%</p> <p>八戸市が整備を進める市立屋内スケート場は、2019年秋の供用開始に向け、着々と建設工事が進んでいる。4月12日現在、外周部分などの「スタンド工区」の工事はほぼ終了した。4月には屋根部分の作業に着手。今後、骨組みのほか防水などの工事を行い、屋根は10月末にも出来上がる見通しである。屋根の他に、床や内外装などの工事を経て、建物自体は来年6月中旬にも完成する予定という。</p>
(2)	<p>八戸市 苫小牧市と連携強化へ</p> <p>小林眞市長と苫小牧市の岩倉博文市長は4月27日、苫小牧市役所で懇談し、海外コンテナ航路の開設やフェリー航路を活用した交流人口の拡大などに向け、都市間の連携を強化していく方針を確認した。産業、物流といった分野に加え、観光面などでも協力を模索していきたい考え。人口減少・超高齢社会が進み、自治体同士の連携の重要性が高まる中、フェリー航路で結ばれ、互いに工業都市という類似性を持つ苫小牧市との連携の可能性を探るため、八戸市側が首長同士の意見交換を打診した。具体的な事業内容については今後、事務レベルで協議を進める。</p>
(3)	<p>館鼻岸壁に待望の公衆トイレ新設</p> <p>館鼻岸壁朝市の会場として知られる館鼻漁港内に、待望の公衆トイレが完成した。これまで朝市会場には9基の仮設トイレや、青森県設置の公衆トイレがあったが、全て和式。仮設には簡易的な手洗い場しかなく、利便性と衛生面からも、多目的トイレを含めた常設トイレの整備を求める声が高まっていた。加えて、増加する外国人や足腰の弱いお年寄りなど、さまざまなニーズに対応するため、同朝市会が2016年に市に整備を要望していた。鉄筋コンクリート造り、バリアフリー対応で、延べ床面積は51.26平方メートル。男子トイレ（小便器3基、洋式便器2基）、女子トイレ（洋式便器4基）、多目的トイレのほか、水飲み場2カ所が設置された。</p>
(4)	<p>八戸市民病院のドクターカーV3 実績着々 蘇生事例も</p> <p>八戸市立市民病院と八戸工業大が共同開発し、国内で初めて出勤先での手術を可能にした「ドクターカーV3」。2016年1月の初出勤以来、これまでに計10回出勤し、うち3回は手術などの治療が行われ、退院に結び付いた事例もある。V3は一般の車両を改造し、人工心肺補助装置や人工透析、人工呼吸器などを搭載。現場では主に2メートル四方のテントを張った「処置室」で治療する。今後実績を積み重ね、一刻を争う現場で救命救急の切り札として浸透するか注目される。</p>
(5)	<p>是川縄文館企画展「掘りdayはちのへ」開催 5遺跡の遺物展示</p> <p>2017年度の発掘成果をまとめた企画展「掘りdayはちのへ」が4月28日、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館で始まった。今回は、一王寺1（縄文時代）、松長根（弥生時代）、熊野堂（平安時代）、新井田古館（戦国・江戸時代）、雷（江戸時代）の5遺跡から出土した遺物210点を展示している。中でも熊野堂遺跡からは、「緑釉陶器」と呼ばれる珍しい陶器が出土。緑色に発色する銅を混ぜた釉薬を掛けて焼かれ、現在の滋賀県付近で作られたとされ、青森県内では青森市に次いで2例目の発見となった。そのほか、縄文から近世までの人々の暮らしぶりや生活環境をうかがい知る貴重な遺物を紹介している。6月24日まで。</p>

(6)	<p>老朽化により閉鎖した田名部記念アリーナ 市長が財政支援を表明</p> <p>開館から28年が経過して老朽化が進み、4月22日に閉鎖した「田名部記念アリーナ」を巡り、小林眞市長は5月2日、アリーナを運営する青森県アイスホッケー連盟に対し、再開に向けた財政支援に乗り出す考えを表明した。連盟は市の支援を前提に営業を再開する方針を確認しており、アリーナは来季も営業することが確実となった。</p>
-----	---

【産業】

記事	概要
(7)	<p>青天の霹靂でせんべい汁を商品化 ～米粉入れ もちもちに～</p> <p>八戸市の「しみず食品」の関連会社で土産品販売の「創季屋」は、青森県産米「青天の霹靂」を使った八戸せんべい汁を商品化した。南部せんべいに米粉を入れ、もちもちの食感を楽しめるようにしたのが特長。せんべいに入れる米粉の分量は全体の10%に調整。試行錯誤を繰り返し、コメ特有の食感や舌触りの良さを感じられるように工夫した。汁はしょうゆベースで、あっさりとした味付けがせんべいに合うという。「青天の霹靂 八戸煎餅汁」は4人前入りで、価格は税込み700円。八食センター内にある創季屋の店舗で販売している。</p>
(8)	<p>八戸ー苫小牧フェリー新造船「シルバーティアラ」就航</p> <p>シルバーフェリーを運航する川崎近海汽船（東京）が八戸ー苫小牧（北海道）間に投入する新造船「シルバーティアラ」（約8600トン）が完成し、4月25日午後11時59分苫小牧発から就航した（八戸での第一便は26日午後1時発）。シルバーティアラは全長148.8メートル、航海速力19.7ノット。旅客定員は494人で、トラック82台、乗用車30台の車両積載能力がある。さまざまなタイプの個室を充実させ、乗客の快適性やプライバシーを重視。新登場の「ビューシート」は大海原の眺めを楽しめる。24日には八戸港フェリーターミナルで船内見学会が開催された。</p>
(9)	<p>三八五フーズ 給食用ご飯でハサップ認定</p> <p>三八五流通グループ企業の三八五フーズは4月23日、学校給食用のご飯など炊飯製品が食品衛生管理の国際基準「HACCP（ハサップ）」の認定を受けたと発表した。同社は学校給食事業の展開に伴い、八戸市長苗代元木に炊飯工場を建設。昨年8月から同市と階上町の小中学校37校に対し、1日当たり米飯約1万食を供給している。認定取得によって高度な品質管理を徹底し、より安全・安心な給食サービスの提供につなげる考えである。</p>
(10)	<p>「八戸前沖ふぐ福まつり」開催 ～旬の前沖トラフグ味わって～</p> <p>三陸沖で捕れた天然のトラフグを提供するイベント「八戸前沖ふぐ福まつり」が5月9日から6月16日まで、八戸、青森両市内の料理店12店舗で開かれる。両市内の料理人らで構成する八戸日本料理業芽生会が、八戸前沖のフグのブランド化などを目指して企画。今年で5年目を迎える。4～6月にかけて水揚げされる“旬”のトラフグで八戸の新たな魅力を創出しようと展開。期間中は、各店が工夫を凝らしたコース料理を提供。主催者側は「この機会に手頃な値段で高級魚を味わってほしい」とアピールしている。</p>

(11)	<p>青森県内2017年度民泊者数 6658人で過去最多</p> <p>青森県内の農林漁家民泊の2017年度の実績は、宿泊者数が前年度比469人増の6658人で過去最多記録を2年連続で更新した。国内からの旅行者が増加したほか、海外からの旅行者も大幅に増えた。県は「グリーンツーリズム」を一層推進しようと国内外でプロモーションを展開する一方、民宿開業希望者の掘り起こしと育成に努める方針である。海外客が増えた主な要因は、青森中央学院大の卒業生が台湾やタイ、マレーシアで海外コーディネーターとして活躍し、送客を支援しているため。また、同大や県内農家で作る協議会などが果たす窓口機能も大きい。</p>
(12)	<p>八戸港に“春の味覚” サクラマス今季初水揚げ</p> <p>八戸市第3魚市場で4月28日、種差沖の定置網に掛かったサクラマス約110匹が今季初水揚げされた。昨年より2週間ほど早く、サイズは3～1キロ。競りの結果、1キロ当たり2400～890円で取引された。サクラマスは春の味覚で、塩焼きやムニエル、刺し身などで食される。水揚げは6月いっぱい続く見通し。</p>

【地域】

記事	概要
(13)	<p>中心街に夜間保育所「第二さえずりの森」開園</p> <p>八戸市の社会福祉法人浅吉の会は4月2日、認可保育所「第二さえずりの森」を八戸番町ヒルズに開園した。開園日は月曜～土曜で開園時間は午前7時から翌午前3時までで、夜間保育に対応する。1時間単位で子どもを保育する一時預かりも行う。定員は30人で、現在は22人が在籍する。保育料は利用者の所得に応じた金額を設定。市中心街では、誘致企業の増加などに伴い保育所のニーズが高まっており、経済関係者らは共働き家庭などの利便性向上に期待を寄せる。</p>
(14)	<p>国家資格3級機械検査技能士 八戸工高生が一挙49人合格</p> <p>青森県立八戸工業高機械科の2、3年生49人が、1～2月にかけて実施された機械検査技能検定試験に合格し、3級機械検査技能士の資格を取得した。同試験で一度に50人近い合格者を出すのは同校では初めて。同技能士は国家資格で、機械部品の寸法を正確に計測できるかどうかを見るもので、学科と実技で合否が決まる。合格した生徒は資格取得を喜びつつ、物づくりに携わる決意を新たにしている。</p>
(15)	<p>本八駅前通りに“変わり種自販機”設置</p> <p>本八戸駅前通りで、さまざまな当地ドリンクや変わり種ジュースをそろえた自動販売機が人気を集めている。設置場所は、新たな企画の立案や運営を手掛けるボランティア集団「まちぐみ」の事務所前で、組長を務める山本耕一郎さんが“独自”のセンスで商品を収集。「まちぐみ名物 超レア！おもしろジュース専門」と名付けた自販機には現在、岐阜県名産の果物の柿を使ったジュース(220円)や、関西地方で定番の「水あめ」ドリンク(130円)、うるち米やもち米などを原料とする沖縄県宮古島市で人気の「ミキ ウコン入り」(180円)、何が当たるか分からないラッキードリンク(150円)など厳選された12商品を陳列。口コミや会員制交流サイト(SNS)によって市民らの中で徐々に話題となりつつある。</p>

(16)	<p>蕪島でウミネコ産卵始まる ～「無事に巣立って」～</p> <p>国の天然記念物に指定されているウミネコの繁殖地・蕪島で4月18日、今年初の産卵が確認された。昨年より1日遅いが、平年並み。初産卵が認められた巣では、親鳥が片時も離れず、卵を大切に抱いていた。監視員は「産卵が始まりうれしい。これからかえるひなが無事に巣立ってほしい」と目を細める。ウミネコの産卵は今後ピークを迎え、5月中旬ごろにはひながかえり始めるという。</p>
(17)	<p>八戸市内最古の銭湯「三島湯」 91年の歴史に幕</p> <p>八戸市内に現存する最も古い老舗銭湯「三島湯」（白銀1丁目）が、4月29日の営業をもって91年の歴史に幕を下ろすことを決めた。燃料費の高騰や利用客の減少に伴う赤字、さらに店主の高齢を理由に、「残念だが閉めざるを得ない」と閉店を判断した。三島湯は1927（昭和2）年創業で、地下水を沸かした湯が特徴の公衆浴場。しゅうとから店を受け継いだ松橋美雪さん(82)が約15年間、一人で切り盛りしてきた。松橋さんは「近年はわざわざ遠方から来てくれる人もいて、驚いていた。本当は続けたい気持ちでいっぱいだが…」と残念そうに話した。</p>
(18)	<p>80年の節目を迎えた鮫角灯台 一般開放始まる</p> <p>八戸市鮫町の鮫角灯台の一般開放が4月21日から始まった。同灯台は1938年2月に初点灯し、今年で80年目の節目。高さ22.73メートルで、約36キロ先まで光が届くのが特長。灯台の上からは美しい海岸線などを見ることができる。一般開放は種差海岸が三陸復興国立公園に指定されたことを受け、2013年から行っている。同日は午前9時にオープニングセレモニーが行われ、訪れた市民や観光客が灯台の上から望む壮大な景色を楽しんだ。10月28日までの土日・祝日に開放し、夏休み期間中（7月21日～8月21日）は毎日開放する。入場無料。</p>
(19)	<p>社会福祉法人でシステム開発 最新情報通信技術（ICT）で見守り</p> <p>八戸市の社会福祉法人やすらぎ会が運営するサービス付き高齢者向け住宅「白山台やすらぎ館」で、総合施設長を務める齋藤呂文さんらが開発した福祉施設向けのシステム「みまろぐクラウド」が介護現場で注目されている。最新の情報通信技術（ICT）を駆使してセンサー、ナースコール、記録システムを連携させることによって、入居者の体調の変化にいち早く対応できるほか、事務作業の効率化を実現。人手不足が深刻な業界内で、スタッフの負担軽減やサービスの向上につながると期待される。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	<p>全日本ジュニアレスリングで光星高勢が活躍</p> <p>4月に横浜市で行われたJOCジュニアオリンピックカップ大会2018年度全日本ジュニアレスリング選手権で、八戸学院光星高レスリング部の3年浜田大地さんが男子カデットの部92キロ級で準優勝、2年荒道豊樹さんが48キロ級で3位にそれぞれ輝いた。2人は今後の県高校春季大会やインターハイを見据え、「次は優勝したい」と闘志を燃やしている。</p>
(21)	<p>アイスホッケー女子五輪代表の中村亜実（八戸出身）さん 現役引退</p> <p>平昌冬季五輪アイスホッケー女子日本代表の中村亜実（八戸市出身、西武）が4月26日、現役引退を表明した。中村さんは「4年間を一区切りと考えた。平昌五輪の最終戦を終えて、悔いなくプレーできたと思った」と引退を決断した理由を語った。今後については「支えてくれた八戸にも恩返しできれば。また、将来、アイスホッケー女子が金メダルを取れるように貢献したい」と話していた。</p>

動画クリエイターを募集しています。

【募集〆切】
6/29(金)
17時 必着



募集人員:2名

3大都市圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、岐阜県、三重県、大阪府、京都府、兵庫県及び奈良県)内の都市地域(過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法、離島振興法、半島振興法、小笠原諸島振興開発特別措置法の対象・指定地域を有する市町村に該当しない市町村)等に現に住所を有し、地域おこし協力隊員として委嘱後、八戸市に生活拠点を移し、住民票を異動できる方

勤務時間:午前9時~午後4時

報酬:月額166,600円

情報発信事業

地域広報動画制作

地域おこし協力隊

青森県八戸市

20歳以上45歳以下の方

「地域おこし協力隊」募集説明会を開催します。

八戸市では、市民が自分のまちに愛着や誇りを持ち、まちづくりに関わりたいと思っていただけるように、当市の魅力について広く情報発信しています。その一環として、地域の魅力や市の取組をより多くの人に知っていただくため、新たに「地域おこし協力隊」として地域広報動画制作・情報発信事業に取り組んでくださる方を募集しています。そこで、首都圏等にお住まいの方が直接ご相談できるよう募集説明会を開催します。



- 事前申込優先
- 申込〆切: 5月17日(木)

平成30年 5月18日(金) 13時～20時
5月19日(土) 11時～18時

会場

移住・交流情報ガーデン

(東京都中央区京橋1-1-6 越前屋ビル1階)



下記の申込書またはメールに必要事項を明記の上、FAXまたはメールにてお申込みください。

<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 24px; font-weight: bold;"> 申 込 書 </div>	名前 必須	年代	20代	30代	40代
	職業	現在お住まいの地域		出身地	
電話番号	メールアドレス				
ご参加の動機	参加希望日時 必須		※ご希望の日時に○印をつけてください。		
	●5月18日(金)		13時	14時	15時 16時 17時 18時 19時
	●5月19日(土)		11時	13時	14時 15時 16時 17時

※ご提供いただいた個人情報については、本イベントに関するご連絡にのみ利用させていただきます。

FAX 0178-47-1485 メール iju@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市「地域おこし協力隊」募集概要

活動内容

- 1 八戸市の取組や地域のイベント情報の動画を制作し、インターネット等で情報発信
- 2 市が情報発信する業務への従事・協力
- 3 その他市長が必要と認める作業

募集対象

- 1 3大都市圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、岐阜県、三重県、大阪府、京都府、兵庫県及び奈良県)内の都市地域(過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法、離島振興法、半島振興法、小笠原諸島振興開発特別措置法の対象・指定地域を有する市町村に該当しない市町村)等に現に住所を有し、協力隊員として委嘱後、八戸市に生活拠点を移し、住民票を異動できる方
- 2 20歳以上45歳以下の方
- 3 基本的な動画編集及びパソコン操作をできる方 他

募集人員 2名

勤務地 八戸市内

勤務時間

原則として月～金曜日までの午前9時～午後4時まで(うち1時間は休憩時間とする)

身分・任用期間

- 1 隊員の身分は、地方公務員法(昭和25年法律第261号)第3条第3項第3号に規定する特別職の職員とします。
- 2 任用期間は、任用の日から任用の日の属する年度の末日までの1年以内とします。ただし、最長で3年を超えない期間で毎年度更新できるものとします。

報酬

月額166,600円 (税引前、各種社会保険料を含みます)

待遇・福利厚生

- 1 現行の社会保障制度に対応しています(健康保険、厚生年金、雇用保険に加入します)。
- 2 隊員の住居は、予算の範囲内で市が借り上げて貸与します。原則として八戸市内に居住していただきます。
- 3 勤務時間中の活動では、八戸市の公用車を使用できます。
- 4 生活に必要な費用、水道・光熱費等は、個人負担となります。
- 5 休日・休暇
[ア] 原則として土・日曜日、国民の祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
[イ] 年次休暇及び特別休暇は、「地域おこし協力隊(地域広報動画制作・情報発信事業)の取扱いに関する要綱」によるものとします。

申込方法

次の書類を申込先まで送付いただくか、又は直接、市の担当課(広報統計課シティブロモーション推進室)へご提出ください。

- 1 履歴書(任意様式)
- 2 過去の作品実績(A3サイズ以下)
※PDFデータの場合、データサイズを10MB以下にして上記のメールアドレスにお送りください
- 3 実施してみたい内容(任意様式:A4サイズ2枚以内にとまとめてください)
- 4 住民票(平成30年4月2日以降のもの)
- 5 納税証明書(平成30年4月2日以降のもの)
- 6 普通自動車運転免許証の写し(表面・裏面ともコピーしてください)
※過去の作品実績、ポートフォリオ、も含め、応募いただいた書類は返却いたしません。

募集〆切 平成30年6月29日(金) 17時 必着

選考方法

- 第1次選考(書類) 平成30年7月6日(金) 予定
※書類選考の上、原則として、結果を応募者全員に文書で通知します。
- 第2次選考(面接) 平成30年7月22日(日) 予定 [面接場所] 東京都内
※第2次選考の面持のために必要な交通費等の経費は個人負担となります。